

2日

《川俣町中心部に交流施設整備へ》

川俣町は2025年度の利用開始を目指し、町中心部に貸しオフィスや簡易宿泊室を備えた交流施設を整備する。企業や移住者らの活動拠点を設け、産業創出や交流人口の拡大を図ることで、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの町全体の復興につなげ、少子高齢化などによる町中心部の活力衰退を防ぐ狙いもある。

9日

《ミドリヤの納豆、全国納豆鑑評会優秀賞受賞》

納豆の糸の引き具合や風味の良さで日本一を決める全国納豆鑑評会が長野市で開かれ、小粒・極小粒部門でミドリヤ（郡山市）の「みのり納豆ほのか」が優秀賞を受賞した。最優秀賞（農林水産大臣賞）には、鈴木食品工業（新潟市）の「大粒白糸納豆」が選ばれた。

10日

《東北清酒鑑評会、純米部門上位独占》

仙台国税局は2022酒造年度（2022年7月～2023年6月）東北清酒鑑評会の結果を発表した。純米酒の部で、「廣戸川」を造る松崎酒造（天栄村）が初めて最優秀賞に輝いた。次点の評価員特別賞には「絆舞 佳酔」の曙酒造（会津坂下町）、「奥の松」の東日本酒造協業組合（二本松市）が入った。純米酒の部で県内蔵元が上位2賞を独占するのは2017年以来6年ぶり2度目となる。

15日

《桑折町、住み続けたい街調査2年連続1位》

大東建託（東京都）が居住者の満足度調査をまとめた「いい部屋ネット住み続けたい街ランキング」を発表した。県内市町村の順位では、桑折町が2年連続で1位となった。同町は東北版のランキングで、昨年の15位から順位を上げて5位に入った。

《長時間労働、初の5%以下》

長時間労働の目安とされる週労働時間60時間を超える雇用者の割合が、県内で4.8%となったと総務省の2022年の調査で分かった。5%下回るのは初めてとなる。福島労働局は、働き方

改革の意識の高まり、新型コロナウイルス感染拡大に伴うテレワークの普及が背景にあるとみている。

17日

《本県への移住相談、3年連続全国3位》

総務省は全国の都道府県と市町村が2022年度に受け付けた移住に関する相談件数を発表した。市町村分を含めた都道府県別で本県は17,267件に上り、3年連続で3位となった。前年度から3,668件増え、過去最多を更新した。

20日

《福島空港乗降客数、前年同期比38.9%増》

福島空港の4月から9月末までの乗降客数は113,835人で前年同期から31,863人（38.9%）増えた。コロナ禍前の2019年度同期の77.7%まで回復した。国内線は定期便の大阪便が86,489人で前年同期から24,493人増え、札幌便が23,424人で5,686人増えた。

《本県とNTT 東日本、副業促進に向け連携開始》

県は、副業人材と県内事業者を効率的に結び付けるため、NTT 東日本との連携をスタートさせた。事業者にとって採用する副業人材の選択肢が広がる利点があるほか、県は同社の社員が本県に関わる機会を増やし、移住を考えるきっかけにしたいと考えている。

27日

《エフレイ、ロボットと農林水産分野契約第1号》

福島国際研究教育機構（エフレイ）は、ロボットと農林水産分野の一部研究開発テーマで、委託先と契約を結んだと発表した。エフレイは自前施設のない当面の間、外部研究機関などへの委託を研究開発の中心と位置付けており、今回が契約の第1号となる。

30日

《富岡町の復興拠点、避難指示解除》

東京電力福島第一原発事故に伴い帰還困難区域となった富岡町の小良ヶ浜、深谷両地区で、特定復興再生拠点区域（復興拠点）に指定された集会所や共同墓地、そこにつながる道路の避難指示が解除された。これにより、県内6町村に設けられた復興拠点の避難指示解除が完了した。